

Genius English Communication III Revised 高校卒業後のハイレベルな英語運用を見据えて

西川健誠



英語の4技能のバランスの取れた涵養を目指しながら、将来国際的に活躍することになる高校生の思索にふさわしい材料を英文で提供するものが、初版以来の *Genius English Communication* シリーズ（以下、GECシリーズ）の特徴です。*Genius English Communication III Revised*（以下、GEC III）では、初版発行からわずか3年の間とはいえ、小さくない変化のあった内外の状況を反映すべく、本課については3つのLessonを差し替え、1つのLessonでは取り上げる人物の差し替えを行いました。またRead On!についても4つ、差し替えを行っています。以下、今回新しく入った内容を簡単に紹介いたします。

◆生徒の視野を広げる読みごたえのある教材

多文化共生はGECシリーズで一貫して大切にしているテーマのひとつです。Lesson 1 Vancouver Asahi: The Road to Inclusionsでは、外地に出た日本人が現実を経験した多文化共生までの道のりを取り上げました。バンクーバーの日系移民が創設した野球チームが、白人選手・審判・観客からの差別を受けながらも、日本人ならではの戦法を用いることでアマチュア・リーグにおいて頭角を現していったこと、白人審判の誤審に白人ファンからの抗議も引き起こすような、人種を問わず全ての野球ファンに愛されるチームへと育っていったこと、第二次大戦の勃発に伴いチームは解散を余儀なくされたが、野球が取用所に送られた日系人と他のカナダ人との間の和睦の手段となったことを、平易な文章で追ったものです。本

Lessonでの学びは、差別を受ける中でもなお自らの文化中の良きものを保つことで渡った先の人々の尊敬を得るに至った日本人について学びながら、日本人としてのアイデンティティを改めて確認することにつながるでしょう。と同時に、ますます多くの海外出身者を隣人として迎えることになるだろう現在の日本の高校生に、移民として住むことの困難さや共生の作法について、是非とも思いを馳せてもらえればと思います。

科学技術の分野では、認知科学の発展と相まって、AI (Artificial Intelligence) が大きな関心と呼んでいます。2016年3月、AIと碁の世界チャンピオンが対局し、世界チャンピオンが敗れるという出来事がありました。この出来事から書き起こし、AIが人類にもたらす正負双方の可能性を論じるのが、Lesson 2 Artificial Intelligence: Is It a Blessing or a Curse? です。よりの確な医療診断、自動車の自動運転、といった形でAIへの期待が高まる一方、AIが人間の知能に匹敵した場合、これまで人間だけができる仕事とされた領域をAIに侵食されないか、そもそも人間の人間らしさをどこに求めればよいのか、についての議論を、極力専門用語を避けた文章で紹介しています。科学技術論として読むこともできますし人間論として読むこともできる文章ですので、文系理系の別を問わず、生徒達には興味を持ってもらえるでしょう。

改訂版の本書が最初に生徒の手に取られるのは2019年であり、翌年の東京オリンピック・パラリンピックへの機運も大いに高まっているものと予

想されます。Lesson 8では、初版と同様パラリンピックの誕生の経緯を扱いながら、Part 4で、パラリンピックでの活躍が期待されるスポーツ選手として、プロ車いすテニス選手・国枝慎吾氏を取り上げました。同課に呼応する Read On! 8では、「オリンピック・トリヴィア」的に、かつて行われた事がある、しかし今日の時点から見ると笑ってしまうかもしれないような、オリンピック競技を紹介しています。1つ1つが短く、またウィットの利いた文章で書かれているので、肩の力を抜いて読むことができますでしょう。

GEC シリーズ全体の最終課となる Lesson 10は、「世界一貧しい大統領」と呼ばれるウルグアイの元大統領ホセ・ムヒカ氏を取り上げました。2012年ブラジル・リオデジャネイロで行われた『国連持続可能な開発会議』の席で行った氏の演説、および訪日時のインタビューの言葉も引きつつ、富や権力からの自由を体現した氏の生き方、また経済第一主義の袋小路に陥ったように見える日本人への氏のメッセージを紹介します。世界に生きる全ての人々、また各人にとり「持続可能」な幸せとはどんなものかを考えさせる、個人・社会双方にとっての「幸福論」であり、GEC シリーズ全体の冒頭、GEC I, Lesson 1 A Village of One Hundred と対をなすものです。そしてこの「世界一貧しい」大統領が求めるオルタナティブな生き方への、豊かで強い国のリーダーからの応答として、今回 Read On! 10 で取り上げたオバマ前米国大統領の広島・平和記念公園におけるスピーチ（抜粋）を読んでみてはいかがでしょうか。人間にとって恩恵とも呪いともなり得る科学の力から思索をはじめ、人間の内にある悪への傾きを指摘し、同時に自らの率いる国が超大国として軍事力を持んできた、また今もなお恃む現実を認めながら、なお自由・平和といった理念に信を置く意志を、この演説は格調高い英語で表明しています。いずれ世界を率いる地位についてもおかしくない若者に、是非とも読み考えてもらいたい演説

です。

今回、レイアウトについても若干変更しました。英語の文章の形式・内容上のまとまりの単位としてのパラグラフについてより生徒が意識できるように、改訂版では各パラグラフに番号を付したのが、最も大きな変更です。加えて、初版では脚注に示していた新語および成句表現 (Expressions) は、全て傍注とし、英文を読む際の目の動きが本文の流れを追うことに集中する一助となるようにしました。これに合わせ、成句表現の例文は、Lesson の最後にまとめて示しております。

◆卒業後も使える英語運用力をめざして

高校3年生ともなれば、多くの生徒の直近の目標は大学入試かと思われます。シリーズ最終巻として GEC III もこの点を考慮に入れていますが、今回の改訂にあたっては、初版同様、本書で学んだ生徒達が高校卒業後、入学試験に限らずより高いレベルで能動的に英語を使用していく準備となることを、第一に考えました。能動的に英語を使用するというと、まずは日常的な口頭での output が想像されますが、身近な所では e-mail 等での通信、フォーマルな場面では論文執筆あるいは職場での文書作成という形で、書き言葉での output が求められる場面も存外多いはずですが、Comprehension では択一式ではない自由回答の形の問題を含み、Communication Activities では GEC I・GEC II に引き続き Concept Map を埋めることから出発し150-200 words の長さの要約を英語で書く課題を用意しています。さらに Exercises でも、本課の内容をより一般化したテーマの下にエッセーを書くことを求める本書は、入学試験の場面を超えて求められるフォーマルな英語での output の力を鍛えるのに、格好の教材です。GEC III での学びが自ずと大学入学のための、また大学入学後の英語を通じた学びの、準備となると確信しております。

(にしかわ けんせい・神戸市外国語大学教授)